

■ インターネットIR情報

当社は、株主・投資家の皆さまにタイムリーでわかりやすい情報発信を目指し、ホームページの充実をはかるなど、IR活動の向上に取り組んでいます。

キーウェア IR <https://www.keyware.co.jp/ir/>

■ IR情報

■ 個人投資家の皆さまへ
より深く当社グループをご理解いただくために個人投資家の皆さまへ向けた情報を発信しております。

■ 決算説明 (動画配信)
決算説明の動画を資料とともに配信しております。業績報告や今後の戦略などについてご説明しております。

キーウェアソリューションズ 株式会社

〒156-8588 東京都世田谷区上北沢5-37-18
経営企画部 広報IR室
<https://www.keyware.co.jp>



JUSE-RA-034
JUSE-EG-266
Registrations JUSE-IR-001



本誌は、植物性インキを使用しています。

※掲載されている会社名と製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

KEYWARE TIMES

株主通信 Vol.26

第54期 事業報告
2018年4月1日～2019年3月31日

特集 | 担当取締役に聞く
業績拡大に向けた
ラインサポートスタッフの取り組み



KEYWARE
SOLUTIONS

キーウェアソリューションズ 株式会社
東証第二部 3799

IT can create it.



持続的な事業の成長と企業価値の向上を目指してまいります

代表取締役社長

三 田 昌 弘

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2019年3月期における当社グループは、既存顧客からのシステム更新需要のほか、新規顧客からのIT投資需要により、良好な受注環境が継続いたしました。このような事業環境のもと、当社グループは、グループ各社やビジネスパートナー企業と連携し、既存顧客の大型請負案件の受注に注力するとともに、ITコンサルティングや各種パッケージソリューションを活用した提案活動を通じ、新規顧客の獲得に努めました。また、収益性の向上に向けて、注力領域を選択し人材リソースを集中させる取り組みや、請負化を推進したほか、プロジェクト管理の徹底により不採算案件の発生抑制に取り組みました。さらに、持続的成長の実現と中長期の企業価値向上に向けて、先端技術に対応できる技術者の育成や、新規事業創出などイノベーションを生み出すことができる人材の育成に努めたほか、社員の働き方改革に向けた職場環境の整備に取り組みました。

こうした取り組みの結果、当社グループの当連結会計年度の受注高は17,639百万円（前期比628百万円増、3.7%増）、売上高は17,561百万円（同809百万円増、4.8%増）、営業利益は320百万円（同89百万円減、21.8%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は344百万円（同139百万円増、68.3%増）となりました。配当金は、前期に対して4円増配の1株あたり12円の期末配当としました。

2020年3月期は、既存顧客からのシステム更新需要の継続が見込まれるほか、働き方改革や人手不足に対応するための生産性向上を目的としたIT投資需要が堅調

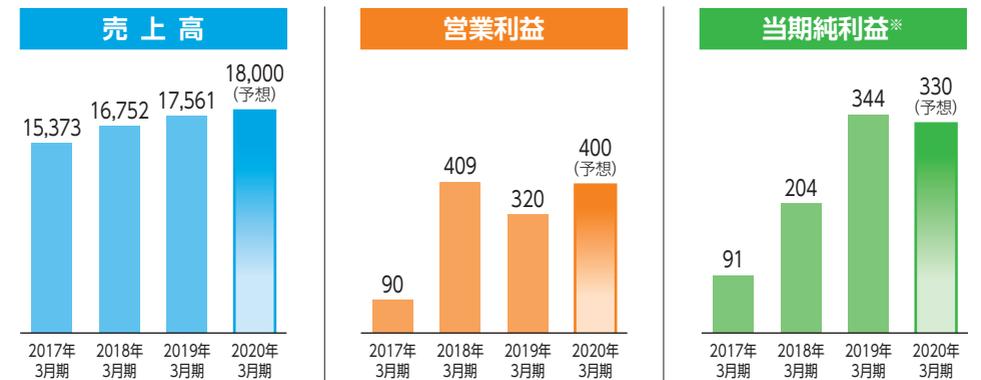
に推移するものと見込んでおります。一方で、IT技術者不足は、業界全体の課題となっております。

このような事業環境の中、当社グループは、「基盤事業の拡大と収益向上」「新規事業の創出・育成」「社員の働きがい向上」を主要方針として取り組んでまいります。収益向上に向けては、顧客の需要を積極的に取り込むべく、人材リソースの戦略的な確保に取り組んでいくほか、プロジェクト管理の強化により不採算案件の発生抑制に努めてまいります。また、今年4月、新たにIoT&クラウドシステム事業部を設置しました。当社の強みである監視制御技術を生かしたIoTソリューション・サービスのさらなる展開をはかっていく考えです。さらに、社員一人ひとりが能力を発揮し、安心して働くことができるよう諸制度や職場環境の整備を進めてまいります。

当社グループはこれからも、持続的成長と企業価値のさらなる向上を目指してまいります。株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結業績ハイライト

(単位：百万円、単位未満切り捨て)



※親会社株主に帰属する当期純利益を表記しています。

担当取締役聞く 業績拡大に向けたラインサポートスタッフの取り組み

事業部門を横断的にサポートし、事業拡大と収益向上をはかります

Q ラインサポートスタッフの業務内容を教えてください。

事業部門を横断的にサポートする部門で、営業部門、事業部門、開発プロジェクトと密接に関わりながら、組織やプロジェクトの収益性向上やシステムの品質向上などを支援しています。

当部門は3つの部で構成されており、プロジェクトのリスク管理や品質管理に取り組む「プロジェクト管理本部」、事業部の戦略の立案と実行を支援する「事業戦略部」、ビジネスパートナーから技術者の調達を行うほか、IT機器やソフトウェアの仕入れを行う「購買部」があります。



Q 業績拡大に向けたラインサポートスタッフの役割について教えてください。

当社の基盤事業であるシステム開発事業とSI事業は、優秀な技術者をいかに多く、安定的に確保するかが事業拡大の大きなカギになります。そのため、開発プロジェクトに必要な技術者を質・量ともに確保すべく、ビジネスパートナーとの連携強化をはかっています。

また、収益性向上のためには、不採算プロジェクトの発生を抑制することが非常に重要です。数年前に比べれば発生件数も金額も減ってきていますが、それをゼロに近づけるために、プロジェクトの規模、工程、金額といったさまざまな点から当該プロジェクトの妥当性を、今まで以上に厳密に精査しています。こうすることによって、プロジェクトの収益性と品質の両方を担保できると考えています。さらに、プ

ロジェクト管理で活用できるフレームワークやノウハウなどを提供するための情報基盤も整備し、各事業部に提供することにより、予算管理の精度向上やプロジェクト管理の徹底をはかっています。

Q 今期の具体的な取り組みについて教えてください。

不採算プロジェクトの発生を抑制していくために、プロジェクト管理本部では、プロジェクトのモニタリングを行って問題点の早期発見とリスク低減をはかっています。また、近年、従来のシステム開発手法に比べて開発期間を大幅に短縮できるとして注目されている「アジャイル開発」に関する事例やノウハウの収集も行い、現場がこうした開発手法に即応できる体制を整えていきます。



取締役 執行役員 ラインサポートスタッフ担当
澤田 伸行

事業戦略部では、PDCAサイクル*を回して事業計画の達成を支援するとともに、より収益性の高いプロジェクトにリソースを集中していく取り組みを加速させていきます。ここ数年で、当社がこれから特に注力していきたい分野や、より収益性の高い分野を明確化し、どの分野に人材を集中させていくべきかを全社的に検討し、決定する体制を構築してきました。これらの戦略を着実に実行するため、課題整理や対策立案など各事業部を支援していきます。

購買部では、お客様のニーズに的確に対応し、受注をさらに拡大していくために、引き続きビジネスパートナーとの連携を強化し、お客様からの引き合いにマッチするスキルやノウハウを持つ技術者を増員していく方針です。

このような取り組みにより、当期の業績目標達成を確実なものとしていくとともに、中長期的な事業拡大と収益向上を実現してまいります。

* PDCAサイクル：業務を継続的に改善していくための手法のひとつ。「Plan（計画）」、「Do（実行）」、「Check（評価）」、「Action（改善）」の略

キーウェアグループのビジネス展開や取り組みについてご紹介します

グループ会社紹介 Vol.1 キーウェアサービス株式会社



代表取締役社長 竹野 則浩

会社概要

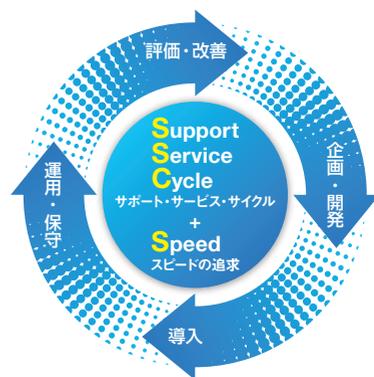
所在地：東京都世田谷区
売上高：13億56百万円
(2019年3月期)
従業員数：69名(2019年3月31日現在)

主な事業内容

- 運用サービス
- インフラソリューション
- フロントソリューション

当社は、ITに関するサポートサービス分野に特化した事業を展開しており、キーウェアグループをはじめ、大手メーカー、Sierと連携し、情報系システムの構築や運用保守サービスを提供しています。一般オフィス向けには、PC、サーバ、ネットワーク、および情報系製品の設計、導入、展開、運用保守までの一貫したサービスを提供し、特にフロントソリューションとして、IBM社の「Notes/Domino」*製品の導入・運用において多くの実績を有しています。近年は、Microsoft社のクラウドサービス「Office 365」関連のソリューション提供にも注力し、業務の効率化や働き方改革の実現を支援しています。

事業コンセプトとして、お客様の情報システムのライフサイクルに連動してサービスを提供すべく、設立当初から「サポート・サービス・サイクル (SSC)」を掲げてまいりましたが、このほど、さらに「スピード」を加え「SSC+S」を新たなコンセプトといたしました。より迅速にお客様のビジネスニーズに対応し、スピード感をもって事業を遂行してまいります。



事業コンセプト「SSC+S」

* 組織内における情報共有とアプリケーション構築を実現し、生産性の向上を支援するシステムソフトウェア。
2019年5月末時点で、IBM社が販売

TOPIC 働き方改革の実現に向けた4社共催セミナーを開催

現在、多くの企業では働き方改革の実現に向けて、生産性向上などの取り組みが加速しています。本セミナーでは、生産性の向上につながる「内製化」と「自動化」に有効なソリューションとして、キヤノンITソリューションズ(株)のWebアプリケーション自動生成ツール「Web Performer」、アステリア(株)のデータ連携ミドルウェア「ASTERIA Warp」、RPAツール「NEC Software Robot Solution」をご紹介しました。企業や自治体などから多くの皆さまにご参加いただき、盛況となりました。

働き方改革の処方箋！ 真の生産性向上を実現する 「内製化」と「自動化」セミナー

- ・2018年11月27日 福岡会場
- ・2019年 3月15日 東京会場

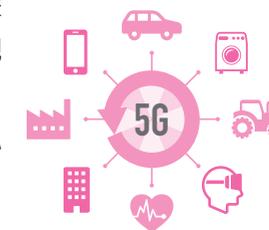
主催：キーウェアソリューションズ(株)
共催：キヤノンITソリューションズ(株) /
アステリア(株) / 日本電気(株) /
キーウェア九州(株) (福岡会場のみ)



知って得する！ ICT時代の活用術19

次世代移动通信システム「5G」で変わる私たちの未来

「5G」は次世代のモバイル通信規格です。特徴は、「超高速」「大容量」「超低遅延」「多数同時接続」。通信速度は現在普及している4Gの約100倍といわれています。この技術によってあらゆるモノがネットにつながる「IoT」の普及が加速し、医師が離れた場所から患者の診療を行う遠隔医療やドライバー不要の自動運転が実現するなど、様々な分野で活用が期待されています。5G元年といわれる2019年。5Gの導入によって私たちの暮らしや社会がより便利で豊かに変わっていくことに、大きな期待が寄せられています。



連結財務諸表(要約)

単位：百万円、単位未満切り捨て

Financial Data

連結貸借対照表

	前 期 2018年 3月31日現在	当 期 2019年 3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	6,385	6,432
固定資産	3,375	3,342
有形固定資産	106	99
無形固定資産	472	393
投資その他の資産	2,797	2,849
資産合計	9,761	9,774

POINT 資産の部

現金及び預金の減少、固定資産の減価償却による減少などがありました。また、売掛金の増加、棚卸資産の増加などにより、前期末比13百万円増加の9,774百万円となりました。

(負債の部)

流動負債	3,062	3,049
固定負債	651	428
負債合計	3,713	3,478

POINT 負債の部

買掛金の増加などがありましたが、長期借入金の返済による減少などにより、前期末比235百万円減少の3,478百万円となりました。

(純資産の部)

株主資本	6,010	6,286
その他の 包括利益累計額	36	9
純資産合計	6,047	6,296
負債純資産合計	9,761	9,774

POINT 純資産の部

当期純利益の計上などにより、前期末比249百万円増加の6,296百万円となりました。その結果、当期末の自己資本比率は64.4%となりました。

連結損益計算書

	前 期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	当 期 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
売上高	16,752	17,561
売上原価	13,985	14,833
売上総利益	2,767	2,727
販売費及び一般管理費	2,357	2,407
営業利益	409	320
経常利益	465	399
親会社株主に帰属する 当期純利益	204	344

POINT 売上高

官庁系、医療系、金融系、ERP系および流通系が堅調に推移したことから前期比809百万円増加の17,561百万円となりました。

POINT 営業利益

売上高の増加による利益増はありましたが、一部不採算案件の発生により、前期比89百万円減益の320百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

	前 期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	当 期 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	551	102
投資活動による キャッシュ・フロー	△64	△126
財務活動による キャッシュ・フロー	△52	△392
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	433	△416
現金及び現金同等物の 期首残高	1,156	1,590
現金及び現金同等物の 期末残高	1,590	1,174

POINT 連結キャッシュ・フロー

営業CFは、売掛債権の増加などはありませんでしたが、税金等調整前当期純利益の計上などにより102百万円のプラス、投資CFは、無形固定資産、投資有価証券の取得などにより126百万円のマイナス、財務CFは、長期借入金の返済などにより392百万円のマイナスとなり、その結果、現金及び現金同等物の期末残高は、1,174百万円となりました。

株式情報

(2019年3月31日現在)

Stock Information

株式情報

発行可能株式総数 36,440,000株
 発行済株式総数 9,110,000株
 株主数 3,020名

●主要法人株主

日本電気株式会社
 株式会社JR東日本情報システム

住友生命保険相互会社
 株式会社三井住友銀行

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会、期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人 および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
【郵便物送付先】	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
【電話照会先】	(フリーダイヤル)0120-782-031
【インターネット ホームページ URL】	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
公告掲載方法	当社ホームページにおける電子公告
上場証券取引所	東京証券取引所市場第二部

株式に関するお手続き

- 住所変更等のお届出およびご照会について
 お取引の証券会社にお問い合わせください。証券会社の口座のご利用がない株主様は上記の三井住友信託銀行の電話照会先にお問い合わせください。
- 未払配当金のお受取りについて
 株主名簿管理人である三井住友信託銀行にお申出ください。

会社概要

(2019年6月25日現在)

Corporate Data

会社概要

商号	キーウェアソリューションズ株式会社
住所	〒156-8588 東京都世田谷区上北沢5-37-18
創立	1965年5月
資本金	17億37百万円
売上	175億61百万円(2019年3月期・連結)
従業員数	1,095名(2019年3月31日現在・連結)
取得資格	品質マネジメントシステム登録事業者 プライバシーマーク使用許諾事業者 情報セキュリティマネジメントシステム登録事業者 環境マネジメントシステム登録事業者

役員

代表取締役社長	み た まさ ひろ 三 田 昌 弘	監 査 役	しま だ たか お 島 田 孝 雄
取 締 役	あら かわ しん いち 荒 河 信 一	監 査 役	ささ はら しげ お 笹 原 茂 男
取 締 役	たか お せい いち 高 尾 誠 一	監 査 役	たき た ひろし 瀧 田 博
取 締 役	さわ だ のぶ ゆき 澤 田 伸 行	監 査 役	えん どう けん じ 遠 藤 健 司
取 締 役	やま もと ひろ あき 山 本 浩 昭		
取 締 役	お がわ とし かず 小 川 俊 一		
取 締 役	おか だ かつ とし 岡 田 勝 利		
取 締 役	いわ さき とみ み 岩 崎 知 巳		
取 締 役	の だ ま き こ 野 田 万 起 子		

※取締役 岡田 勝利、岩崎 知巳および野田 万起子は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
 ※監査役 瀧田 博および遠藤 健司は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。
 ※取締役 岡田 勝利、野田 万起子および監査役 瀧田 博は、東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員です。